

1998年(平成10年)9月5日(土曜日)

9 [中部社会] 4版

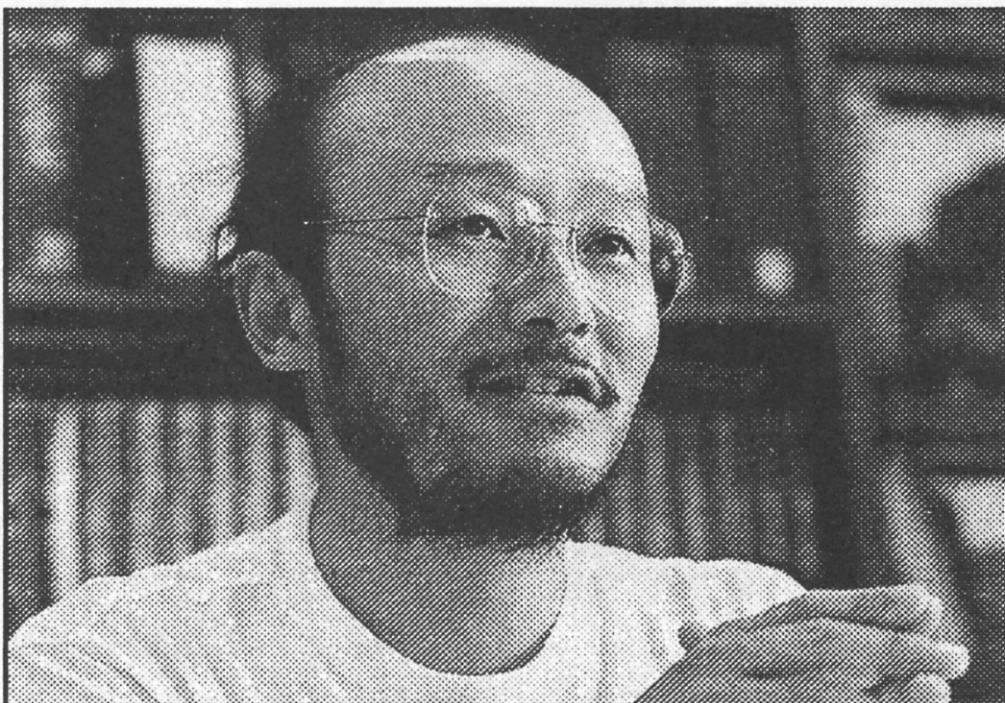
【第三種郵便物認可】

中高年層の登山愛好家人  
氣を集める北アルプス・蝶ヶ  
岳の山頂近くにある山小屋  
臨時診療所が設置された。名  
古屋市立大医学部の研究者や  
医学生らによる「蝶ヶ岳ボラ  
ンティア診療班」が運営する  
が、三浦はその結成を中心にな  
って進め、診療にもあたつ  
た。遺伝子が専門分野の研究  
者だが、「病気に悩む人を助  
ける目的は医師と同じ。患者  
の手に触れ、脈を測ることで、  
人を救う喜びを実感したい」  
と語る。

中部  
ひと  
未来

## 山小屋の臨時診療所で奮闘

三浦 裕



[みうら・ゆたか] 1954年東京都杉並区生まれ。名古屋市立大医学部分子医学研究所助手

ら聞いた話が診療班発足のき  
つかけだった。ヒュッテには  
毎年、六千人以上の宿泊客が  
訪れ、数十人が体調不良を訴  
える。最寄りの病院まで徒歩  
で約五時間の山頂で、経営者  
ケ岳ヒュッテの女性経営者が  
院し、病室が同じになった蝶  
ヶ岳ヒュッテの女性経営者が  
昨年三月に、ともに娘が入

害、三〇〇〇人では精神錯乱  
に陥ることもあるとされる高  
山病。自身も年一度の山登り  
を欠かさない愛好家。「登山  
者の安全管理には医師が、山  
小屋に常駐することが不可  
欠」との意を強くしたという。  
八月一日から開いた診療所に  
は十九日間、頭痛や吐き気な  
どを訴える約七十人の登山者  
が訪れた。

「山岳治療」では、大学病  
院のような診断器具などの近  
代的な医療設備は、望めない。  
約八年前に、診察の現場を離  
れ、研究に没頭してきただけ  
に「これほど困難な場所で十  
分な診察ができるのか、と開  
所初日には胃が痛くなつた」  
という。しかし、患者の登山  
ルートなどを聞き、血圧を測  
るといった診療は「聴診器一  
本で診るといろ医師の原点を  
改めて体験する最良の機会に  
なつた」と話す。

診療活動の傍ら、「登山者

自らの健康管理で、高山病は  
未然に防げることを知らせた  
い」と、山の歩き方や水分の  
取り方、呼吸法などを指導す  
る講演会も毎夜、ヒュッテ内  
で開いた。多い日には定員約  
五十人の会場に、五百七十人  
もの登山客が訪れることがあ  
った。

蝶ヶ岳で初の診療所は、地  
元の遭難防止協会などから感  
謝状が届くなどの成果を上げ  
た。だが、山岳治療に取り組  
む他大学の診療方針を研究し  
て臨んだ試みにもかかわら  
ず、「利尿剤などの投与とい  
つた典型的な治療に頼りすぎ  
たかもしれない」との思いも  
消えない。今回、参加した学  
生らと来夏の設置に向けた勉  
強会も早速企画している。「登  
山者に最適の治療法を確立し  
たい」。同好の士に対する温  
かい思いはますます深まるばかりだ。